

S. A. 社会システム学科・4 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定したのが確か11月の頭だったので、準備期間自体は半年ほどあったと思います。その間は特に力を入れて英語の勉強をあまりしていませんでしたが、気が向いたら英字新聞をオンラインで見るとできる範囲でしていました。また一人暮らしだったため3月に引越しをしなければならず、それまではバイトをして留学費用のために少しだけお金を貯めました。実家に帰った後は自動車学校に行って運転免許を取るなど時間を有効に使いました。

② 語学研修期間

語学研修期間は異文化の生活に馴染むためのイントロダクションみたいな感じで、アメリカの食文化や異なる生活スタイルを直に体験することができました。また毎週末にはダウンタウンに出かけたり、現地で催されたイベントに参加したり、ショッピングに行くなどアクティビティーがたくさんありました。期間は短いですが、日本食パーティーを開いたり、ホームステイも体験できたりとたくさんの人との交流があり楽しい時間を過ごすことができました。

③ 正規科目履修期間

・私の同女での専攻がビジネスなので、ビジネスの授業を3つ履修しました。他にはESLの授業やEnglishの授業を取り、またArtにも興味があったので2つほど履修しました。以下にあるものが履修した授業です。

(Business)

・ Marketing Principle

この授業はテキストに忠実に沿って進められていたのもあり、予習がしやすかったです(先生によるかもしれませんが)。そして期末試験はなく、ファイナルプロジェクトが課されました。詳しく言えば一人ひとりが一つの企業を選び、その企業についての分析や、そのマーケティングについてリサーチしてペーパーを書き、それについてプレゼンをするという内容でした。

・ Management Principle

この授業ではグループディスカッションが行われていて、生徒の発言がたくさん飛び交っていました。毎週テキストの課された範囲のページを読み、ジャーナルを書くというのが宿題でした。そして最後にファイナルプロジェクトとして女性経営者についてインタビューをしてプレゼンをしました。その上にまた、期末試験もありました。一見大変そうに見えますが、先生が留学生にやさしく質問も毎回聞きに行くなどできたため、思

ったより授業自体には着いていくことができました。ちなみに小テストのたびに勉強のためのガイドをもらえることができました。

• **Global Marketing**

この授業は、「300番代」というのもあり、リーディングの宿題がとても大変でした。毎回授業に合わせてチャプターを一つずつ読み、チャプターごとの質問に答えるという内容のものでした。何ページも教科書を読んでも答えが分かりにくく、すごく難しかったです。授業自体はディスカッションが主体で期末試験はなく、ファイナルとしてこれもプレゼンがありました。内容としては一人ずつが国を選び、その国に対してビジネスを行う場合に何を売り出すかというものでした。

(English)

• **ESL (Academic Writing)**

この授業では、セメスターの中で5つほどペーパーが課され、毎回リーディングの宿題がありました。授業中は主に先生が喋り、その事前に宿題として課されていたリーディングについて話したり、意見を言い合ったりしていました。

• **Public Speaking,**

毎週テーマが違うスピーチの仕方を学び、スピーチをするという授業でした。先生がとてもやさしく、柔軟に対応してくれたのでとても分かりやすかったです。毎週スピーチをしなければならぬという緊張は常にありましたが、この授業のおかげで少しは人前に立って何かを話すということが慣れたように思います。

(Art)

• **Ceramic**

約2時間の授業が週に2回ほどあり、毎回先生の指示に従い作品を作りました。Extra feeがかかってしましますが、たくさんの作品を作ることができました。授業外にも何時間も作業時間を要したりしましたが、ceramicを通してクラスの子達とすごく仲良くなれ、何時間もの努力の結果もきちんと反映され、いい成績ももらえることができたのでとてもいい経験になりました。

• **Drawing**

主に鉛筆や黒のインクを使った絵を描くという授業でした。毎週描く対象のものが変わり、また描き方も違い、難しいときもありましたがいろいろな技法で絵が描けてとても楽しかったです。ちなみに毎年行われる大学内の展示会に出展させてもらえることができました。

④ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

Cosmos という留学生や国際交流などに興味ある人たちが集まるクラブに参加していました。学校の行事にお店を出したり、日本食をお披露目したりしてたくさんの人たちと

交流をして楽しみました。また、個人的にこの Cosmos とは別に Knit club にも参加していました。編み物がすごく好きなので、図書館で不定期でしたが knit club の meeting が行われており、積極的に参加して2つほど作品を編みました。皆で編んでいる間おしゃべりをしたり、編み物を教えあったりと編み物を通して様々な人たちと仲良くなり、友達もできました。

⑤ 現地での住まい

・語学研修期間

この期間はキャンパス内にある寮に滞在していました。私のルームメイトも留学生の子だったのでいろいろ同じ悩みを話したり、一緒にご飯を食べに行ったりして仲良くなりました。寮の設備については、部屋にトイレとシャワーがなく、フロアの共同のバスルームがありそれを利用していました。寮の部屋自体に付いているものはベッド、タンス、クローゼット、デスクにスタンドライトだけでした。LANケーブルを繋ぐのが可能なので、インターネットは利用できました。キッチンと洗濯機が地下にあり、私の住んでいた部屋が3階だったため、行き来が少し大変でした。

・正規科目履修期間

正規科目履修期間中もキャンパス内にある寮に滞在していました。ここも備え付けてある家具は前回とほぼ同じで、トイレとシャワーも共同のものを利用しました。その寮自体が2階建てで、2階がインターナショナルホールといって留学生もしくは国際交流に興味のある生徒が住んでいました。2階にキッチンがあり、1階に洗濯機があったので、前回ほど行き来は大変ではなかったです。そこもLANケーブルが接続可能ですし、ワイヤレスでもインターネットに繋ぐことができました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

冬休みは約1ヶ月という長い期間で、しかも寮を出なくてはなりません。それなので友達2人でアメリカを6ヶ所巡るといってほぼ一周旅行しました。初めは長期の旅行のためどうなるかと思いましたが、現地でたくさんの人と出会い交流を深め、いい思い出がいっぱいできました。ただ冬の旅行だったため、悪天候の日が多く（主に雪）、飛行機の遅れや、防寒にすごく注意を払わなければなりません。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学に行く前に就職活動を支援するウェブサイト（毎日ナビやリクルートナビ）などに登録したりはしていましたが、特にこれと言ってしていたことはなく、2009年に入ってから少し真剣に企業の情報を集めたり、興味のある企業にメールを送り質問をしたり、エントリーシートを送ったりしてしていました。しかし、実際授業を受けている途中でし、宿題などに追われているとそこまで手が付けられませんでした。だからできる範囲でやり、留学中は授業や勉強に集中した方がいいなと思いました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

留学中での思い出はどれも貴重でいろいろありますが、特に印象深いのは去年にオバマ大統領が見られたことです。正確に言えば大統領になる前だったのですが、選挙が行われる一週間前に街頭演説みたいなものが近くの大学で行われるということで、私の留学先大学からバスがでてそこへ行くことができました。着くとすぐにもものすごい長さの列が立ちはだかり、圧倒されたことを覚えています。ものすごい熱気があふれていました。よかったこととはというと、オバマ大統領を見るまでにいろんな人たちをみていて、中にはケンカもあったり、混雑しすぎて叫ぶ人もいたり、大変だったのですが彼が現れた瞬間に全ての人が一つになった気がしたのです。その興奮を私も体感できたということ、性別や人種をも超えて感動を肌で感じられたということがすごく貴重な体験でした。また、留学中で楽しかったことというのはやはり冬休みの旅行だったと思います。特にサンフランシスコがお気に入りでした。中学校のときの英語の教科書にゴールデンゲートブリッジの写真が載っていたことをずっと覚えていて、一度は見てみたいという願いが叶ったからです。いろいろな角度からビックリするぐらいの枚数の写真を撮って友達と楽しんだことがとても思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

留学先の場所で生活リズムを掴むということがとても大変でした。またもともと要領よく時間を使うことがあまり得意ではなかったので、量の多い宿題をこなすのに一苦労しました。春semesterからは取った授業が午後からばかりだったので、前semesterを反省に普段より早起きして、朝に宿題やリーディングを済ませるという生活習慣を身に付けることにより、少しずつ要領もよくなり改善することができました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

思った以上に人がフレンドリーだということでした。知らなくても笑顔で挨拶をしてくれたり声をかけてくれたりする人がたくさんいました。そしていいなと思った習慣は、ドアを開けて次の人が通れるようにするということです。日本にない習慣だったのですごく感動しました。ささいな心がけや気遣いで人を優しい気持ちにさせるのは大切だなと思いました。

それから、他には主にアメリカの食事や、食生活についてはものすごく驚きました。正規科目履修期間の大学に来てから経験したのですが、授業中にランチを教室で食べ始めたりする子がいて、しかも先生もそれに対して指摘すらしなかったことです。また食関連とは別ですが、授業中に彼氏を連れてくる子もいて、日本では考えられない授業風景を体験することができました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は何より、奨学金が充実していたため学費による負担が少ないということ、生徒や先生が本当にフレンドリーで距離も近く、たくさんの人たちと交流できたということでした。日本と違い様々な授業が受けられたため（アートなど）、視野が少し広げられた気がします。

悪かった点は、交通の便があまりよくないところでした。別に小さな町が嫌いというわけではありませんが、車がないと市街地に出られないというのはすごく不便でした。それから、滞在していた寮がインターナショナル専用でよかったのですが、せっかく留学に来ているのに日本人を固めるのはあまりよくないような気がしました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンはもちろん必要でした。やはり図書館にあるパソコンも利用できますが、数も限られていますし、図書館が常に開いているわけではないのである方が非常に便利でした。また、家族や友達と連絡を取るためのスカイプを利用するのに、それに使うマイクやヘッドセットも持っていきました。

③ 語学力の向上等、留学の成果

まだTOEICなど受けなおしておらず、正確な数字が目に見えてないので正直そこまで語学力の上達を感じることができませんが、もともと私はものすごくリスニングが苦手な人でTOEFLのスコアもそこだけが伸びなかったのが、留学してから少しよくなったような気がします。また、留学を通して自発的に動くようになり、留学中にあった春休みには一人で旅行に行くなど、更に好奇心旺盛な性格になったように思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

私は4年生時に留学ということだったので、就職活動のことを考えるとものすごく迷いや不安がたくさんありました。しかし、人はそれぞれですし、今しかできない貴重な体験を逃したくはないと強く思い、この留学に踏み切りました。またこの協定留学に申し込むまでのTOEFLとの戦いがみなさんにとってやはり高い壁だと思うのですが、本当に行きたいのであれば、努力をするのであれば絶対に壁は打ち破れると思います。私も相当苦しみました、「無駄な努力は一つもない」というTOEFL対策講座の講師の言葉を胸に、ひたすら努力した結果、目標スコアに達成することができ、留学へたどり着くことができました。みなさんも自分を信じて諦めずに頑張ってください。

IV. 写真



この写真はハロウィンのときのもの。まず日本でそこまでハロウィンを楽しむという経験がなかったので、ものすごく新鮮でした。その当日に国際交流のディレクターのヘザーさんの家族と「trick or treat」をするために近所を歩き回りました。このとき仮装を初めてしたのですが、街には猫に成りすましたり、スーパーマンに仮想したりした子ども達がいっぱいでとても楽しかったです。その数日前にはパンプキンカービングをしたり、近くの洞窟で催されていた肝試しのイベントに参加したりして、ハロウィンを思いっきり楽しみました。



これは冬休みの旅行で行った「セドナ」での写真です。それまでずっと都市ばかり旅行していて、大自然の国立公園へ行くのは初めてでした。その写真の後ろに少しだけ車が見えると思うのですが、私たちはセドナの山をダイレクトにジープで登って降りていくというスリル満天の「ピンクジープツアー」というものに参加しました。道なき道を無理やりジープで登っていくので、初めはすごく怖くて仕方なかったのですが特定のスポットにたどり着くたびに、直接自分の目で見た大自然の風景に圧倒されて感動したことを覚えています。あいにく天候があまりよくなく霧が山にかかっていたのですが、それも逆に味が出ていて雰囲気がかもし出ている貴重な思い出になりました。

いました。

M. I. 英語英文学科 3 年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

4 月からは授業はなかったのですが、特にやることもなかったし、アメリカに行ってから久々の授業に慌てるのがいやだったので、先生方に頼んでいくつかの授業を聴講させてもらいました。授業では、他の学生と同じように課題やプレゼンテーションをやったりして、普段と変わらない感じで授業を受けていました。

② 語学研修期間

(英語圏 : ESL, Academic Skills Study など、ソウル : 韓国語集中講座、ドイツ : ドイツ語集中講座)

月曜日から木曜日までは授業で、週末は主に Field Trip でした。授業は毎日 3 つありました。授業が始まるのは 11:00 で、終わるのは 16:00 には全部終わるので、かなり時間にゆとりがあったような気がします。

授業自体は、そこまで大変ではありませんでしたが、アメリカでの生活に慣れるという意味では、いい機会だったのではないかなと思います。

③ 正規科目履修期間

・履修科目 (決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容 (科目ごとに 100 字以内程度))

MBC に移動する前に、一度 Pittsburgh に MBC の先生が来てくださったので、そこでどのように登録するのかの説明、どのような科目をとったらいいのか等のアドバイスを受け、MBC 到着後、Academic Adviser の先生と相談し、正式に科目を決定して登録しました。また、授業開始後 1 週間は add/drop period なので、その間に登録修正することも可能でした。

Both Fall and Spring Semester

・MBC101 Orientation to College

この授業では、大学のシステムやアメリカでの生活、またアメリカの政治や歴史など、あらゆることを学びます。freshman, transfer, そして international students の必修です。

・SPAN101, 102 Beginning Spanish

この授業は、スペイン語の基本的な文法や単語を習得することが目標で、週 3 回の class meeting と週 1 回の Language Lab での授業があります。授業では、英語とスペイン語両方を使っていました。

・ENG103, 104 Academic Writing -English as a Second Language-

ここでは、さまざまなタイプのペーパーの書き方を学びます。ペーパーの提出は各セメスター 5 回ずつですが、それまでにそのタイプで書かれた reading assignment がいくつか与えられて、まずはそれらを読むことから慣れていきます。

• MUS120 Piano Lesson

週 1 回の individual piano lesson です。Lesson の他に、実際に学校の auditorium で performance class で弾いたりします。また最終試験として jury があり、先生方の前で弾きます。

• MUS106 Concert Choir

合唱の授業です。学校の行事で歌ったり、地元でコンサートを開いたりします。また、年に一度、週末に Concert Trip に行きます。今年は Annapolis, MD と Dover, DE に行きました。

• JPNS 390 Advanced Japanese (Teaching Assistant)

日本語の授業で、先生のアシスタントをやっていました。

Fall Semester only

• THEA 111 Voice, Diction, and Oral Reading

この授業では、小説、Sonnet、説得文などさまざまなタイプの文章を音読し presentation する中で、いかに聞いている相手に効果的に言いたいことを伝えるかを学びます。私の場合、英語の発音も直してもらいました。

• ED 120 Understanding Exceptional Individuals

この授業では、障害を持った学生、Gifted and Talented の学生について、またそういった学生の教育について学んでいきます。

Spring Semester only

• ED 115 Foundations of Education

この授業では、アメリカでの教育の歴史、哲学、カリキュラム、現代の教育の問題など、さまざまな教育に関することを学んでいきます。

• ANTH 220 Language and Culture

この授業では、言語とは何か、また言語と文化の関係といった、いわゆる Linguistic Anthropology について、それに関するいろいろなテーマで学んでいきます。

• MUS 100 Introduction to Listening

この授業では、中世から現代までの音楽について、各時代の音楽の特徴や、各時代の作曲家やその曲の特徴など、歴史的背景なども交えながら学んでいきます。

• 授業、レポート、定期試験

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

International Club "Cosmos"に入っていました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

Chatham University では、日本人 1 人、アメリカ人 1 人と住んでいました。私は今まで実家暮らしだったため、生活スタイルの違う人と住むのは、最初は少ししんどかったですが、だんだん慣れていきました。

MBC では、International Hall として設置された寮にアメリカ人 1 人と住んでいました。Roommate が希望して International Hall に入った子だったためか、特に大きな問題もなく、むしろ彼女にはたくさん助けられました。

MBC の寮では、キッチンが 1 つあるので、ダイニングでご飯を食べたくないときでも、自分で料理ができるようになっていて、時々利用していました。また、各セメスターに何回か Hall Meeting があつたり、映画を寮のみんなで見たりといったイベントもときどきありました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

Summer Break の間は、他の協定留学生と NY と FL を旅行していました。Winter Break は、ちょっとしたアクシデントがあつたため、一時日本に帰国しました。その間に同女に行つて、Spring Semester に MBC でやる卒論のための research の準備などをしていました。

その他の長期休暇(Fall Break, Thanksgiving Break, Spring Break)は、宿題を与えられたり、Break 後すぐに exam があつたりしたので、友達の家泊めてもらつたり、寮に残つたりしていました。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

音楽のリサイタル。MBC では、学校の Auditorium でかなりの頻度でリサイタルやコンサートがあつて、私は Music の授業の required になっていたこともあつて、よく聞きに行っていました。

また、2008 年はアメリカ大統領選挙の年で、選挙前になると学校中で盛り上がっていました。選挙当日は、どの授業もその話でもちきりで、先生も一緒になって話していて、なかなか授業が始まりませんでした。また、その夜の開票とオバマ大統領の就任演説は、学校中のあちこちにテレビが設置されて、みんなで見ていました。なかなか日本では見ない光景だったので、とても興味深かったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

Pittsburgh にいた頃は、日本食がかなり食べたかったです。語学研修の期間がそんなに

長くないため、調理器具を買ったり、食材を買ったりするのはどうかと思ったので、自分では作れないし、レストランでも本当の日本食に出会えることはほとんどなかったので、日本食がとても恋しかったです。MBC に来てからは、炊飯器もあったし、キッチンで自由にご飯が作れたので、食べたいときは自分で作って食べたり、ほかの日本人と作って食べたりしていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

学生が何でも先生にとりあえず言うてみる。例えば、個人的な理由で欠席したのに、excused absence にしてほしいと先生に頼んでいるなんていう状況がいくつかありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学の規模が小さいというのが、一番良かったかなと思います。先生方は学生一人ひとりの名前をよく覚えてくださっていたし、しっかりサポートしてくださっていました。また、各クラスの数もそんなに多くなく、履修者が 8 人しかいない授業もあったりして、学生同士もかなりフレンドリーでした。

悪かった点は、やはり交通の便が悪いこと。私の場合、ルームメイトが車を持っていたので、いつでも買い物に行くことができましたが、車がないと相当不便だと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは持って行きました。図書館が 0 時に閉まってしまいますが、その時間にペーパーが終わらないということもよくあるので、自分の部屋で勉強できるように自分のパソコンは持って行ったほうがいいです。

あと文房具類は役に立ちます。日本の文房具はアメリカのものとは比べて質がいいので、持っていくことをおすすめします。

③ 語学力の向上等、留学の成果

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

わたしは、同女で特別成績がよかったわけでもないし、英語が特別できたわけでもなかったけど、協定留学生としてアメリカに一年間行って、本当にいろんな経験をさせてもらうことができました。協定留学のハードルは一度やると決めたら、そんなに高くないハードルだと思います。諦めずに頑張ってください。

IV. 写真

- ① ある雪の日の MBC。MBC では、年に数回大雪が降ります。そのせいで、先生が来られなくて、授業が休講なんてことも…。



- ② Thanksgiving Day にルームメイトの家で。食卓に並んでいるのは、Thanksgiving 用の食事です。



K. Y. 英語英文学科・4年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

荷物の準備にはそれほど時間はかかりませんでした。英語や勉強の面での不安はもちろんありましたが、音楽のように英語を部屋で聞き流していた程度でこれといって特別なことはしませんでした。でも留学するということを常に意識するようにはしていました。日本のことでも自然すぎて実はよくわかっていないような物事を1つ1つ見ていくと、アメリカにいる間により多くのことを発見して吸収できると思ったからです。そしてそうすることで、当たり前のように思うごく普通の物事を違う角度から見ようになったと思います。留学中、日本のことや自分の意見を聞かれたときにもっと自分の文化を知っておくべきだったとすごく感じたので、英語そのものよりもっと広い意味で勉強しておくといいと思いました。

② 語学研修期間

(英語圏：ESL, Academic Skills Study など、ソウル：韓国語集中講座、ドイツ：ドイツ語集中講座)

語学研修期間中はアメリカでの生活に慣れるのに最適な期間だったと思います。全てが新鮮でいろんなことを発見していくうちに、あっという間に終わりました。授業は正規の授業を受ける前の準備段階として易しいものから少しずつレベルを上げていくので無理なくついていくことができました。授業でも普段の生活でも日本では知らなかった日常的に使う単語が次々と出てくるので、その都度書き留めてできるだけ使うようにしていました。私は語彙数が少なかったのととても役に立ったと思います。

③ 正規科目履修期間

・履修科目 (決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容 (科目ごとに100字以内程度))

履修科目はアドバイザーの先生と相談して決めました。シラバスを読んで希望する科目を予め用意しておく、アドバイザーの先生が各授業を担当する先生に連絡して留学生が履修できる内容かどうかを確認してくれます。

ESL：留学中に必要なレベルの読み書きを基礎から学べます。英語での読み書きに欠けていることが前提なので間違えることは問題になりません。その他の授業でもとても役立つ力を身につけることができます。

Managing Life's Challenges：実際の自分の生活を検証しながら、人生を豊かにする方法を学びます。同時に、アメリカ人学生と日本人の価値観の違いも発見できます。課題は多いですが、身近な内容なので楽しめると思います。

Public Speaking : 人前で効果的に話す方法を学び、練習できます。短いものから長いものまで、3回に1回程度のスピーチを課されます。その他の授業でのプレゼンテーションのときにもとても役立つ内容です。

Appreciation of Art : 様々な種類の芸術を鑑賞し、その特徴や技法を比較します。歴史的なものばかりではなく、現代の作品も扱います。一度にたくさんの作品を見ることができるので美術館にいるかのような授業です。

Short Story : 短篇小説を掘り下げて読み、その技法や解釈の可能性を探ります。それについてのエッセイも順次課されます。短い作品をたくさん扱うので基礎から幅広く学べる授業です。

Asian Women : アジアの女性の社会的役割について過去から現在までの状況を国別に辿ります。学ぶ内容に加え、日本人としての目線からアメリカの女子学生が日本を含むアジアをどのように見ているのかを見ることができます。

・授業、レポート、定期試験

初めは読む量も書く量も多くて不安に感じ1日中宿題や予復習をしていたような日もありましたが、数をこなすうちに大して苦ではなくなり、更に慣れてくるとメリハリをつけた勉強ができるようになって自由な時間を楽しむ余裕もできました。レポートは、多くの授業で返却後に先生のアドバイスを元に修正を加えて再提出することもできるので、評価が悪くても挽回する余地がありました。試験では悲惨な点数ももらいましたが、それだけが評価の基準ではないのでその他の課題などで巻き返すこともできると感じました。また、授業は月・水・金か火・木で週に2、3回同じ科目があるので回数も多く、より多く深く学べたように思います。課題も含め、毎日その内容について考えていることができました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

インターナショナルのイベントにいくつか参加しました。また、MBC101の授業での課外活動もあり、近くの歴史的な場所を訪問したりしました。学校でのイベントにはできるだけ参加していましたが、その他のボランティアなどには特に参加しませんでした。MBCに着いてすぐの新入生オリエンテーションのときにSalvation Armyで1度地域奉仕活動をした程度です。また、りんごを収穫してフードバンクに寄付するApple Dayというユニークな活動にも早起きして参加しました。

⑤ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について（寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など）

語学研修期間：同じ日の同じ便で着いた京都の大学からの留学生と寮で2人部屋でした。本来4人部屋のところに2人だったのでとても広々と使え、お風呂とトイレもついていました。毎週土曜日には2人で分担して掃除をしていました。その他、クローゼット、たんす、机、ベッド（枕やブランケットなども含む）などが備え付けてあったので特に大きな

買い物は必要ありませんでしたし、日用品なども2人で買って一緒に使っていました。洗濯機・乾燥機やキッチンも共同です。大学が夏休み中だったので、イベントは定期的にホール・ミーティングがあるぐらいでした。

正規科目履修期間：寮でサモア人の正規学生と2人部屋でした。ルームメイトと2人で部屋の白壁一面にカラフルなシールをたくさん貼り付けたのが私たちの生活の始まりでした。お風呂、トイレ、キッチン、洗濯機と乾燥機は共同です。共同の利点は各自で掃除をしなくていいことです。清掃の方が毎日掃除してくれるのでとても清潔で、不自由はありません。金曜日の夜などはたまに騒がしかったり男の人を連れてきたりする学生もいましたが、特に問題はありませんでした。私は基本的に1人であることを好むタイプなのですが、寮での生活はとても楽しくてとても落ち着く場所になりました。

⑥ 長期休暇の過ごし方

アメリカ国内を旅行しました。夏の2週間の旅行は引越しも兼ねていたもので仕方なくスーツケースと共に移動しましたが、冬の1ヶ月間と春の5日間の旅行はバックパックだけで過ごしました。アメリカは広すぎて、いくら欲張っても1年の間に全部は周りきれませんでした。本拠地のピッツバーグとバージニア以外に、ニューヨーク（ナイアガラの滝も含む）、フロリダ、ワシントン DC、シアトル、ロサンゼルス、サンフランシスコ、アリゾナ（グランドキャニオン、セドナなど）、ラスベガス、ボストンを旅行しました。宿泊は全てホステルで、一泊15～30ドル程度でした。有名な場所やきれいな景色にはもちろん感動しましたが、それ以外にもいろいろなものを得ました。ホステルでは様々なバックグラウンドを持った人たちと出会い、旅行中に必然的に成長できると感じましたし、いろいろなことについてたくさん考えた時間でした。ちなみに私が一番惹かれた場所はセドナで、一番住んでみたい場所はシアトルでした。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

就職情報サイトを見て、選考過程が帰国後であるとわかっている企業にのみエントリーしました。実際の就職活動はその程度ですが、留学中は自分自身についてじっくり考える機会や時間がたくさんありました。自分にとって何が大切で、何をしたいのか、自分の長所は？短所は？など、実際に就職活動を始めると必要になることを準備するのに非常にいいチャンスです。帰国後に効率よく就職活動を進められるように準備することは、留学中にも十分にできます。日本にいる友達などが活動を進めていくことに焦りを感じる必要はないと思います、自分の中での就活をしていた程度でした。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

春休みでほとんどの学生が家に帰り留学生も旅行等に出かけて静まり返った寮で、ルーム

メイトと過ごした5日間がとても印象に残っています。私は春休みの後半にボストンへ出かけたので、前半は寮で過ごしました。学生がいなくて学食も閉まり、更に大雪で図書館を含む全てが閉鎖状態。運悪く春休み中ずっと私たち2人はインターネットが繋がらないまま…。部屋に閉じこもってひたすら次の食事を待ちました。結果、「ラーメンタ〜イム！」と数時間ごとにルームメイトと叫び、インスタントラーメン(笑)。悲惨な日々に見えるかもしれませんが、意外に楽しく過ごしました。普段はお互い授業があったり課題に追われていたりとなかなかじっくり話す時間もなかったので、とてもいい機会でした。私は学期の初め、1日中図書館にこもって課題をしていましたが、慣れるにつれて部屋で過ごす時間が長くなりました。ルームメイトと私はお互いずっと部屋にいるタイプだったので一緒に過ごした時間は誰よりも長く、思い出もたくさんあります。ちなみに私たちの部屋には第三のルームメイトがいたので、3人で何でもないことをしては笑っていました。そんなごく普通の時間が忘れられないとてもいい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

授業や課題などで苦労したことはありますが、辛かったことは特にありません。最初に戸惑うことはあっても、すぐに慣れるので問題はありませんでした。いつ来るのかと待ち構えたホームシックもとうとう来なかったほどです。強いて言えば、秋学期前半の授業と課題が一番大変でした。次の授業までには到底読みきれない量のテキストとの格闘、語彙や構文力のなさをひたすら痛感させられるペーパー、完全に置いてけぼりのディスカッション…、なんとかなる主義の私もさすがに一瞬落ち込みました。でもなんとか耐えます！

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

私の1番好きな違いは、雨を「ただの水」と言い張って気にせず傘なしで外を歩くこと。最初に聞いたときはその人だけかと思いましたが、その後何人も同じことを言う人がいたのでこれは文化の違いだと感じました。それからは私も上着のフードをかぶるだけです。それから、包み隠し過ぎない会話も日本人とは違うと感じました。もちろん人によって差はあると思いますが、多くの学生が躊躇わずに率直な質問をしてきたりいろいろ話してくれたりしたことで、とても気楽に接することができました。このように違いは数え切れないほどありましたが、文化や習慣の違いから大きな問題が起こることはありませんでした。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

クラスの規模が小さいことはとてもよかったと思います。学生同士も互いを認識できるので、授業以外で見かけたときも声をかけてくれます。先生も生徒の名前をすぐに覚えてくれ、授業外での相談にも快く応じてくれます。協力的な先生が多いと思いました。とてもカジュアルな授業の雰囲気も好きでした。学校のあるスタントンはすごく小さな町でした

が、私が田舎出身なのもあってかとても落ち着きたいところでした。買い物は少し不便ですが、車を持っている学生も多いので日用品の買い物は問題ありません。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコン、電子辞書、薬類はもちろんですが、それ以外で特に役に立ったのはクリアファイルです。日本では100円程で簡単に手に入りますが、アメリカでは軽くて丈夫で使いやすいものが売っていないのでとても役に立ちました。あとアメリカ全土のガイドブックは長期休暇の際によく使いました。広すぎる国土から訪れる場所を選ぶのにとっても便利です。それから、個人的には靴下探しに苦労しました。アメリカでは（都会ではどうかわかりませんが…）靴下のサイズ分けがおおまかで、基本的にちょうどいいサイズがありません。ちなみに私は23.5cmと日本では平均的ですが、アメリカでは小さいので日本の靴下を愛用していました。

③ 語学力の向上等、留学の成果

留学の成果はいろいろあります。私が特に向上したと感じるのはライティング力です。元のレベルが低かったこともあります。文章を書くことがすごく好きになり、それに伴って自分でも気づくほど書けるようになりました。英語運用能力は確実に伸びます。それから、精神的に得たものもたくさんあります。それは目には見えませんが、自分の中でとても大きな変化が生まれたと思います。いろいろな物事に対してもっと向き合いたいと思うようになりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

決めるときは本当に勇気がいりますが、とりあえずあまり深く考えずに応募書類を提出してほしいと思います。この体験記を読んでいる時点で確実に興味はあるはずですから、行ってマイナスになることは絶対にありません。私は留学中にアメリカに来たことを後悔したことは1度もありませんし、この経験が自分にとってプラスになったと断言できます。この経験はこれからの何かに直接結びつくというのではなく、自分の人生に何らかの影響を与えるものだと思います。自分次第でどのようにでもなる素晴らしい機会だと思うので、思い切って決心してみてください。留学を終えるころには、日本語を書くことが面倒に思うほどアメリカの大学での生活に慣れること間違いありません。

IV. 写真



冬休みの旅行中、アリゾナのフラッグスタッフという町からグランドキャニオンに向かう道です。どこまでもまっすぐに続く道の右にも左にも何もなく、アメリカの広大さを感じました。